

思わぬ形で舞い込んだ「縁」に感謝 地元・東村山で少年野球大会を後援

社会貢献・環境対策委員会委員長 福地 光



りが弊社に務まるのかと困惑しましたが、日頃からお世話になっている市議からの依頼でもあり断ることができませんでした。

その年の夏、弊社が後援する第1回目の大会が開催されました。開会式は入場行進に加え、選手宣誓もあり予想以上に本格的でした。3週間ほどのトーナメント戦で、決勝戦の後に閉会式があり、そこで優勝、準優勝のメダルを選手に渡すのが後援者の仕事です。球場に行くときとすれ違う児童達が帽子を取って大きな声で挨拶してくれます。子供の頃サッカーをやっていた私としては、この礼儀正しさは野球の方が上だなと感じました。

次の年、また市議が来て「トロフィーを作りたいのですが」。乗っ

てしまった船ですから承諾しました。2回目の大会はコロナ禍、開会式は行われず、決勝戦と閉会式にだけ参加



優勝チームに山水カップを贈呈する福地委員長

しましたが、球場に行ってみるとこの大会に「山水カップ」という呼称が付けられていました。東村山市内の全ての少年野球クラブの選手とそのお父さんお母さんが山水カップ優勝を目指して熱い戦いを繰り広げる、地元企業としては大変ありがたい事態となり、関係者の方々には非常に感謝しています。後援初年はコロナ前ですから、12月の東村山野球連盟の納会にも

招待されました。この納会には東村山市長も地元選出の国会議員も顔を出していました。野球というスポーツの歴史を感じました。ここでも連盟の会長から参加者全員に「山水の福地さんです」と紹介してもらいました。こういう義理堅さというのが地元のつながりなんだと実感しました。思わぬ形で弊社に舞い込んだ縁を大切にしたいと思っています。



とある決勝戦をレフトのかなり後ろにある高いネットの裏で見ている時、市議が来ました。「このネットやけに高いですね」と言うと「小学生でこのネット越えのホームランを打ったのは、広島にドラフト指名されFAで巨人に行った江藤選手と、楽天のオコエ選手と、私だけですよ」と自慢話か！

しかしこの縁をつなげてくれたのはこの市議ですから、少し大袈裟に驚いて「すっ、すごいですね！」と持ち上げておきました。

2年前の5月ごろ、親交がある地元・東村山市議が「お願いごとがあります」と言って訪ねてきました。地元の少年野球の大会(東京都学童軟式野球大会新人戦東村山大会)を後援していた日本ハムが野球のことは北海道に集中したいと後援を辞退してしまい、弊社に後援してもらえないかということでした。野球で日本ハムといえあのプロ野球の日本ハムです。その代わ

